

図 3.2-27(1) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成15年度調査)

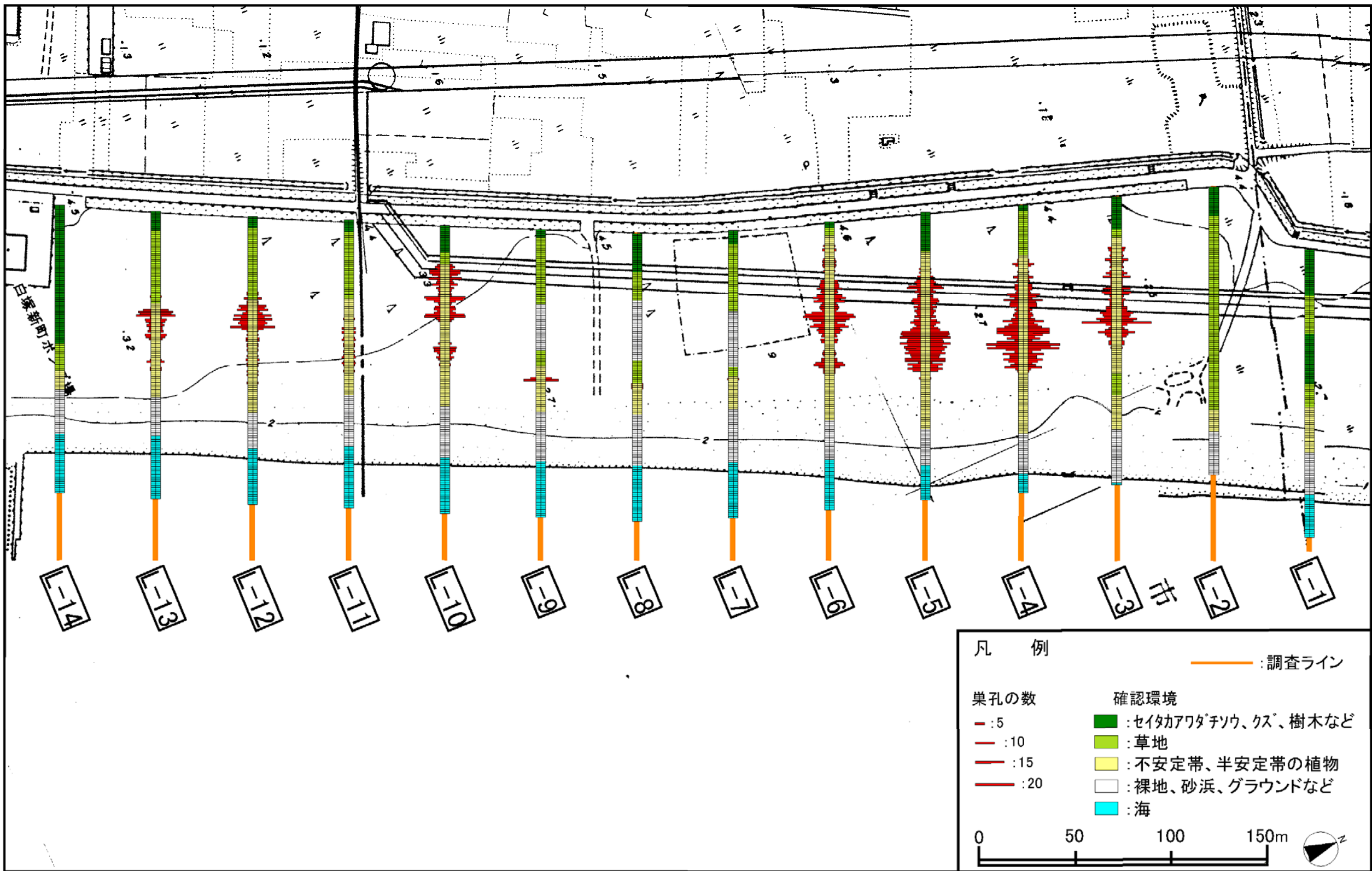


図 3.2-27(2) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成16年度調査)

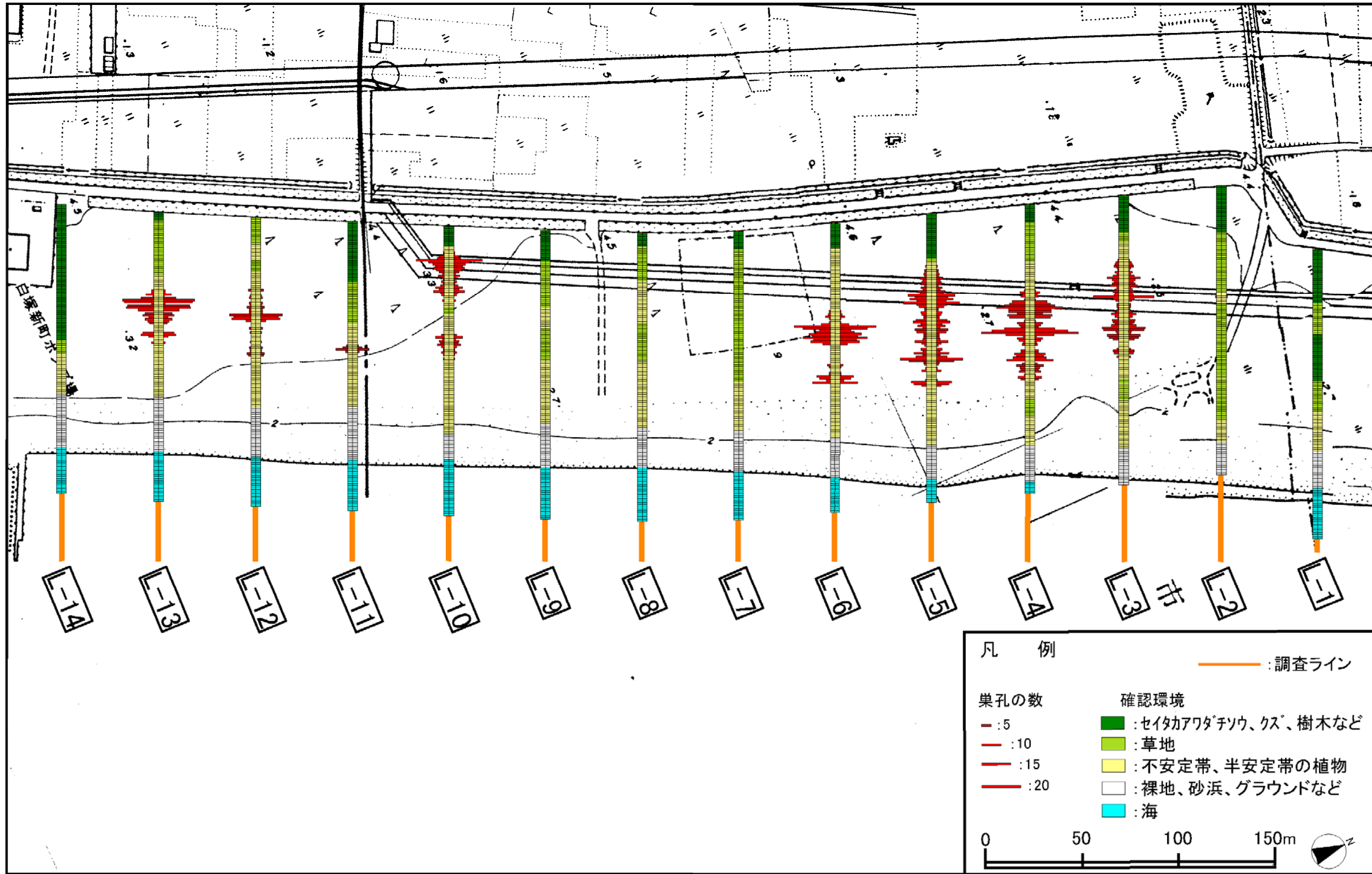


図 3.2-27(3) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成17年度調査)

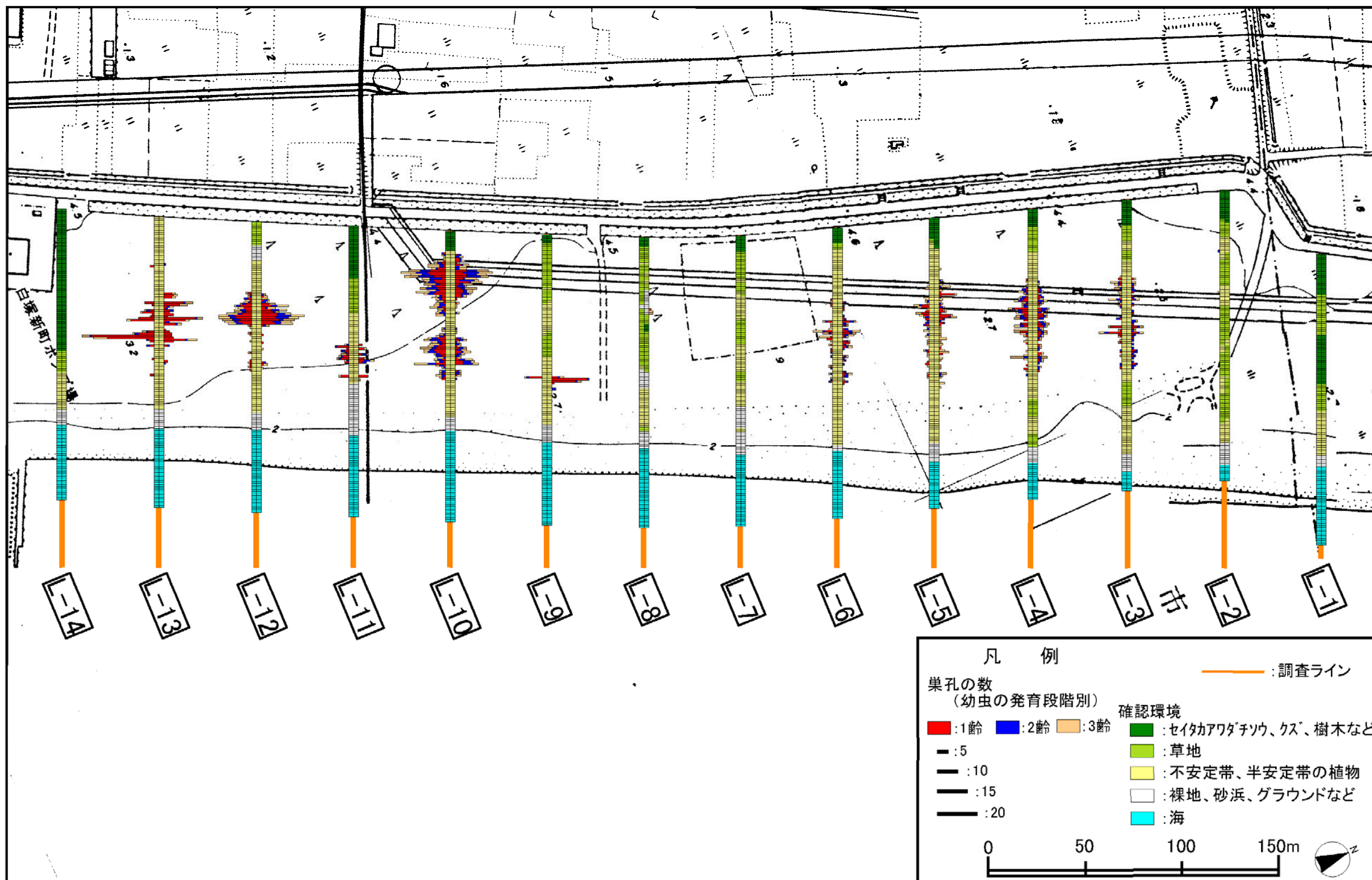


図 3.2-27(4) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成18年度調査)

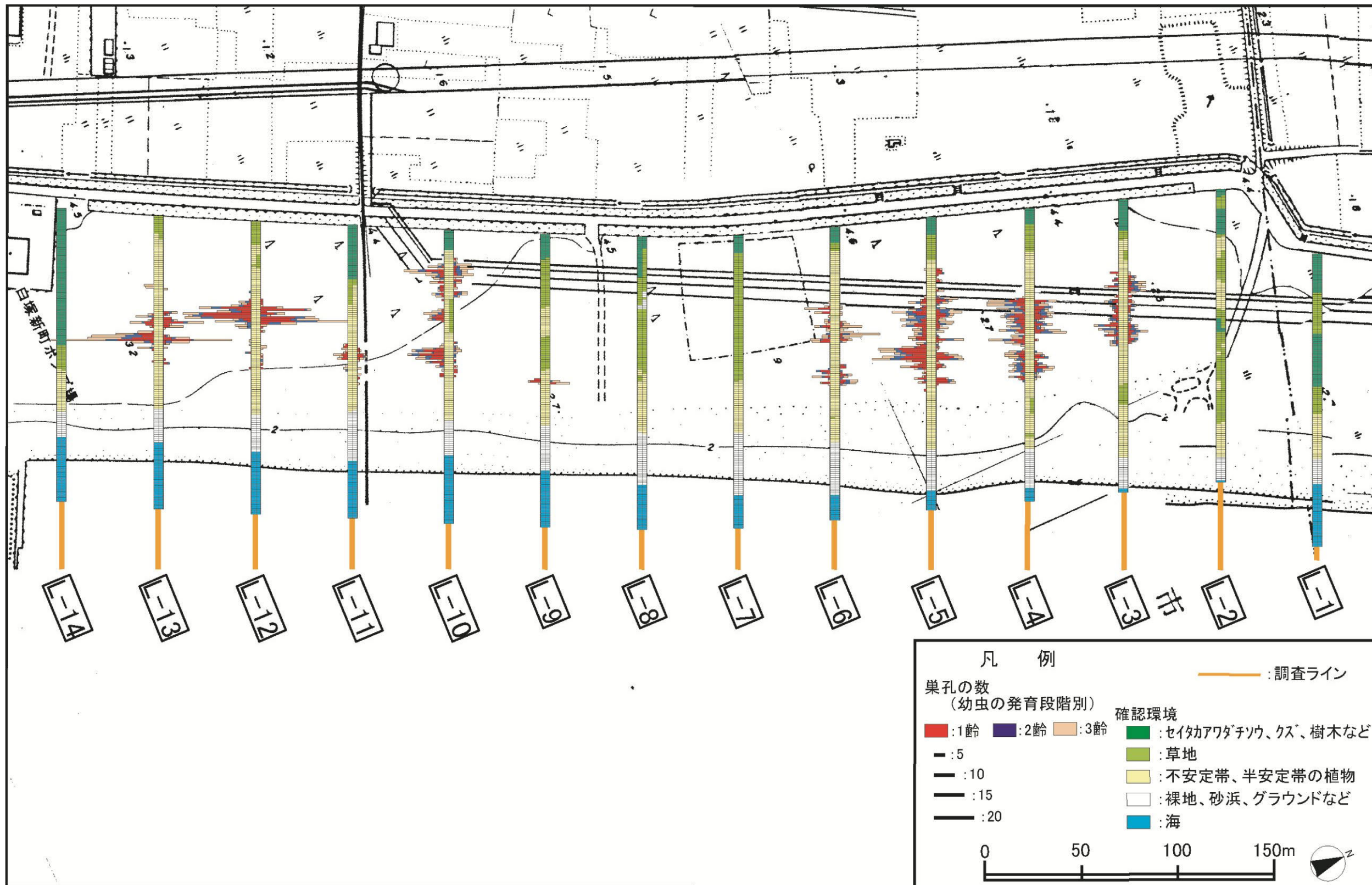


図 3.2-27(5) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成19年度調査)

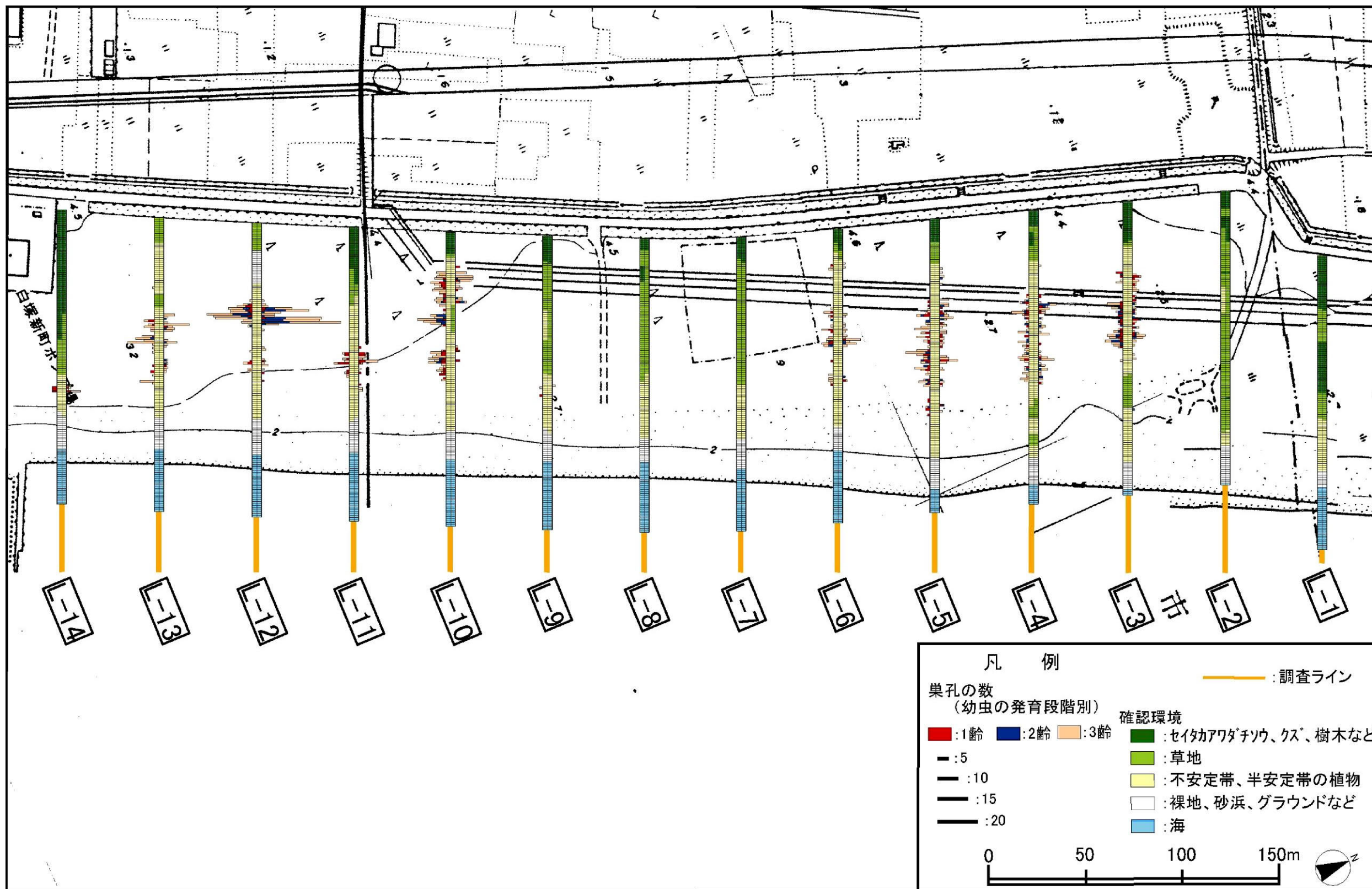
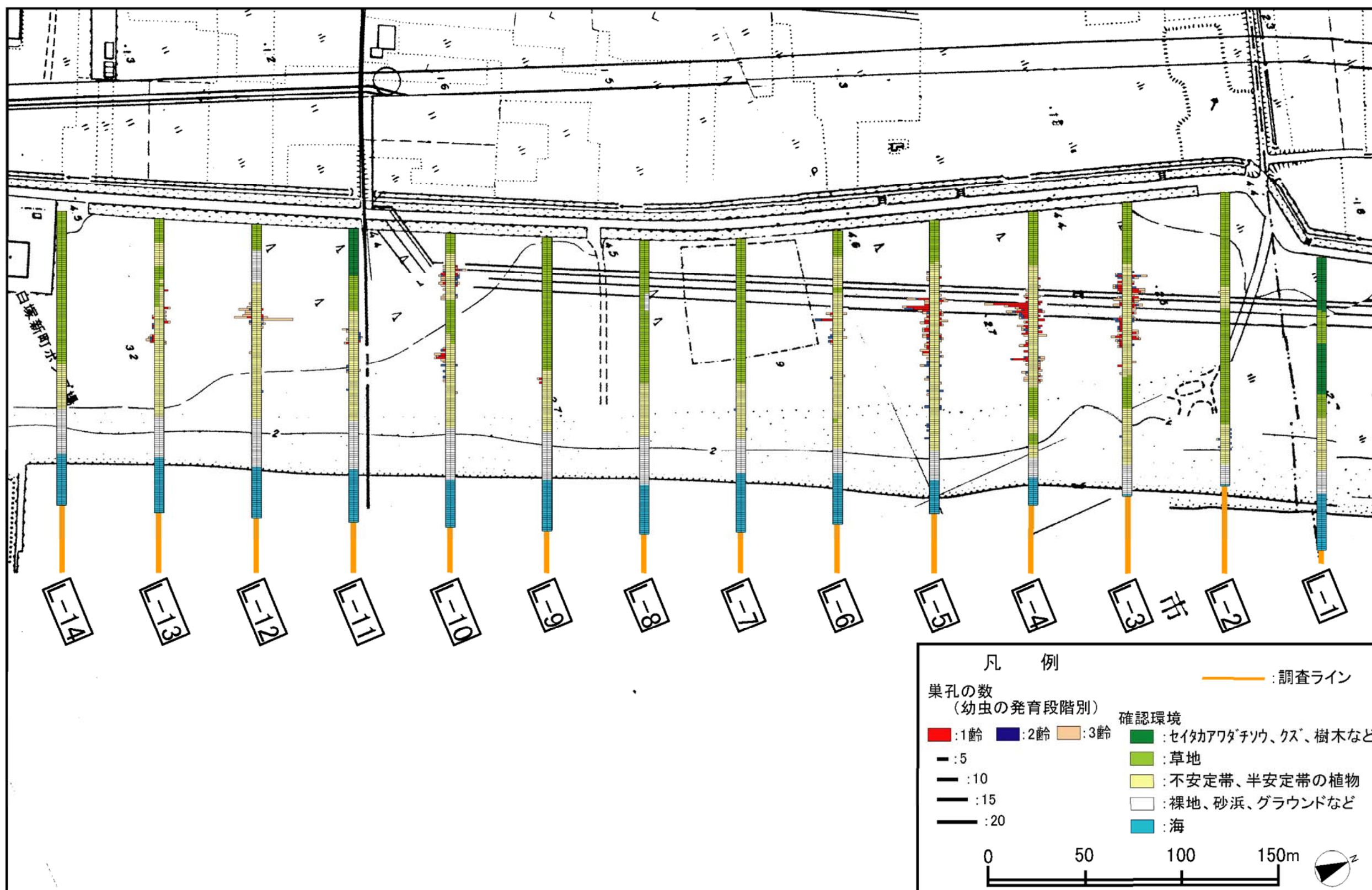


図 3.2-27(6) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成20年度調査)



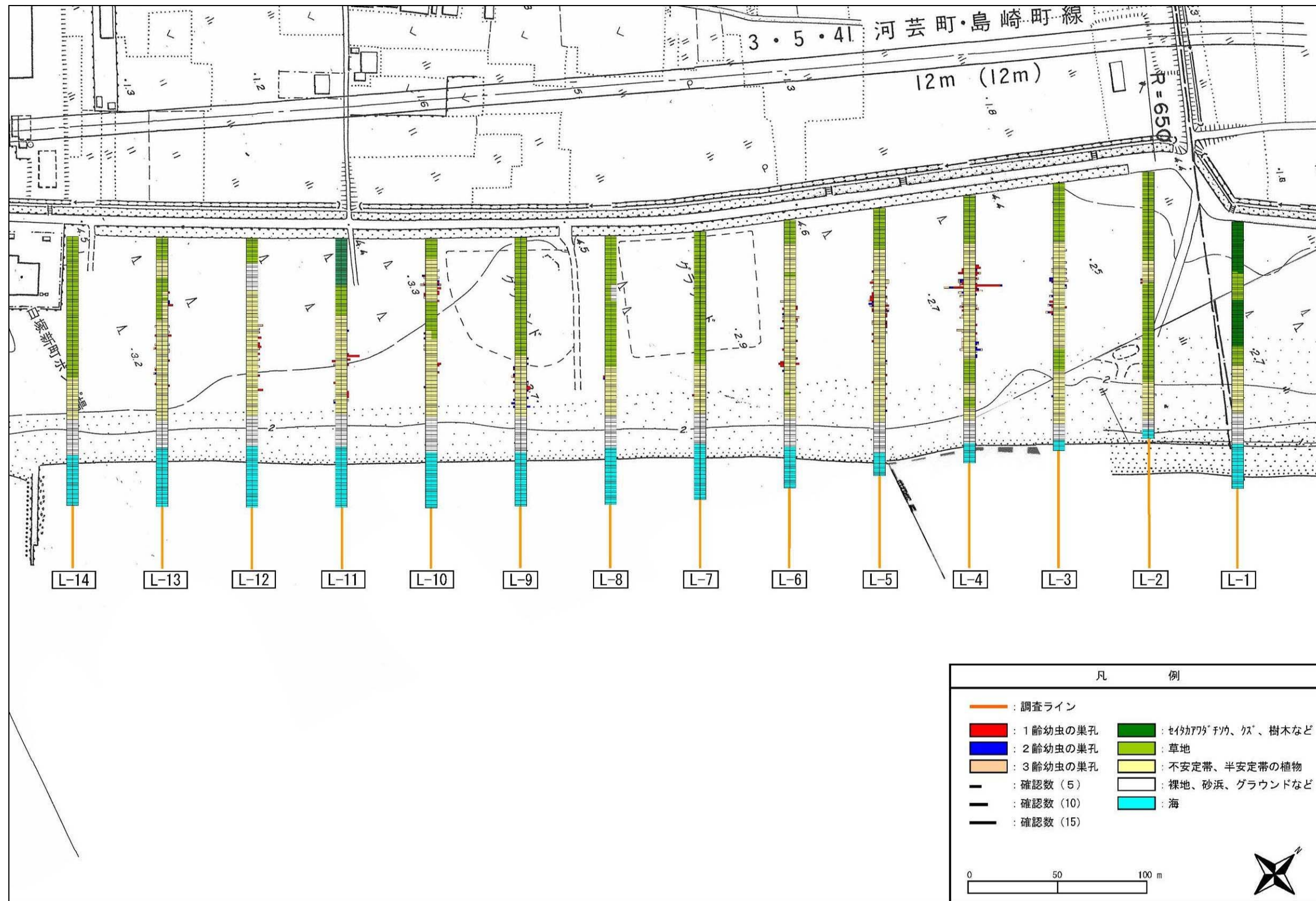


図 3.2-27(8) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成 22 年度調査)



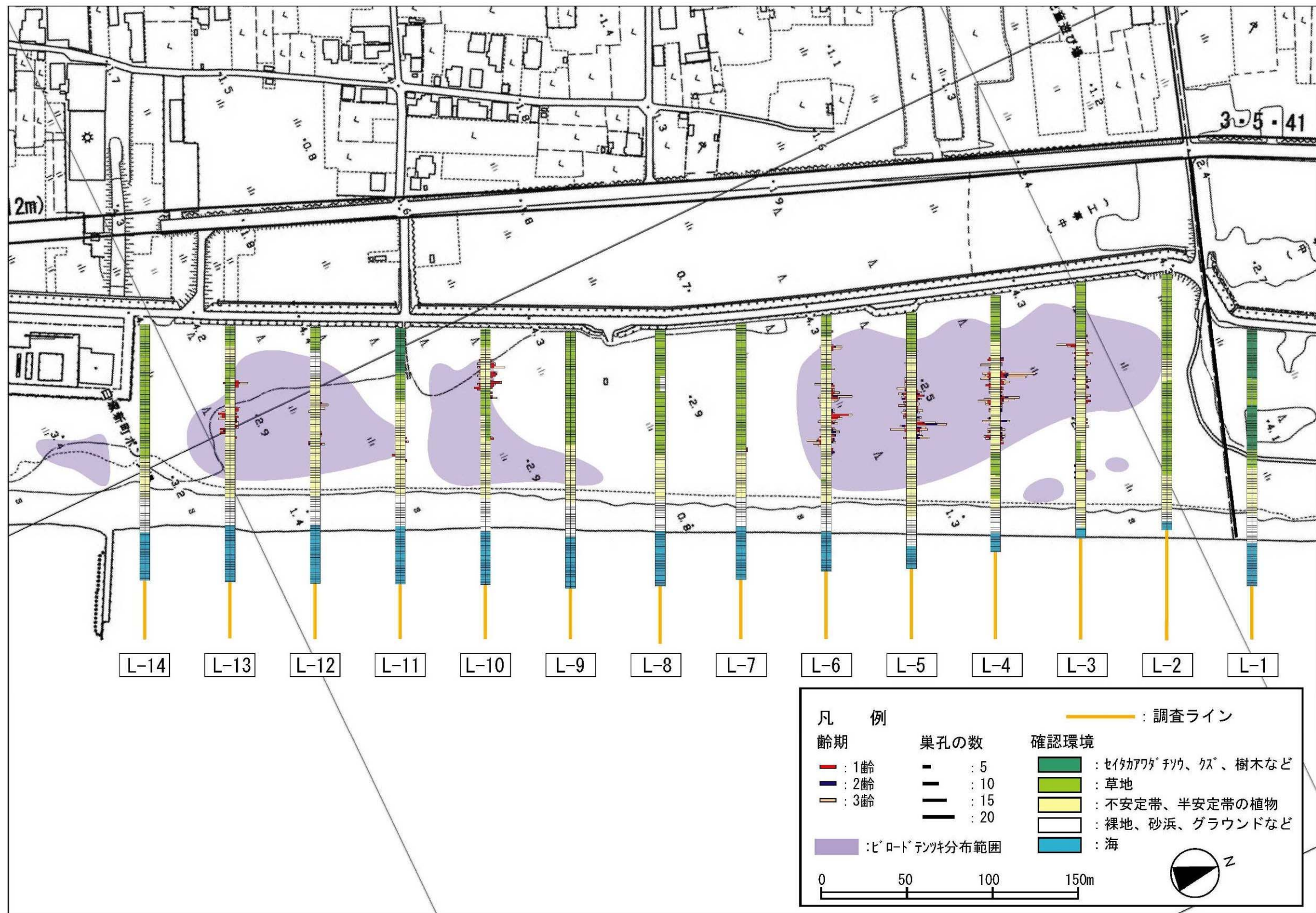


図 3.2-27(9) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成 23 年度調査)

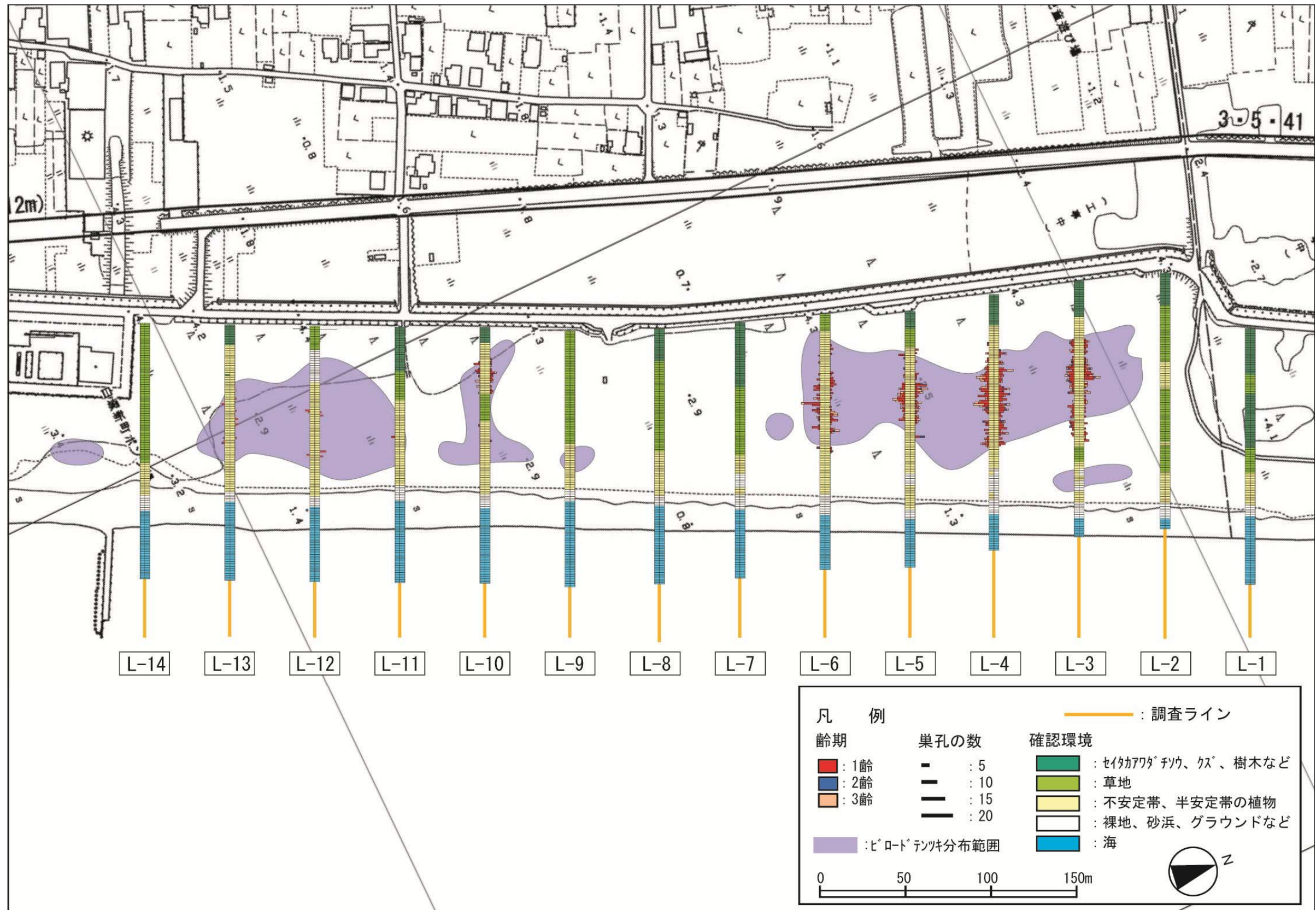


図 3.2-27(10) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果 (平成 24 年度調査)

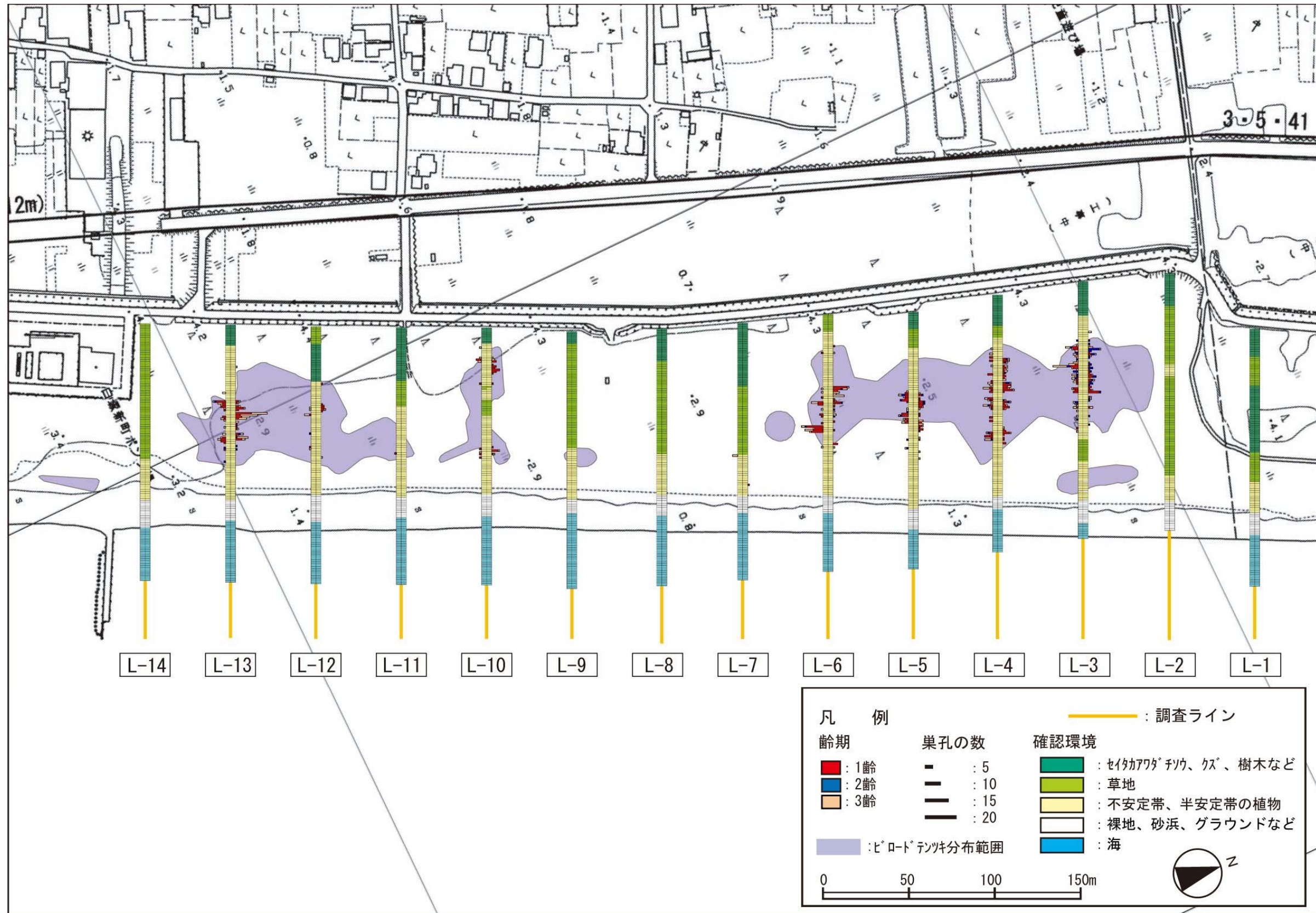


図 3.2-27(11) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果 (平成 25 年度調査)

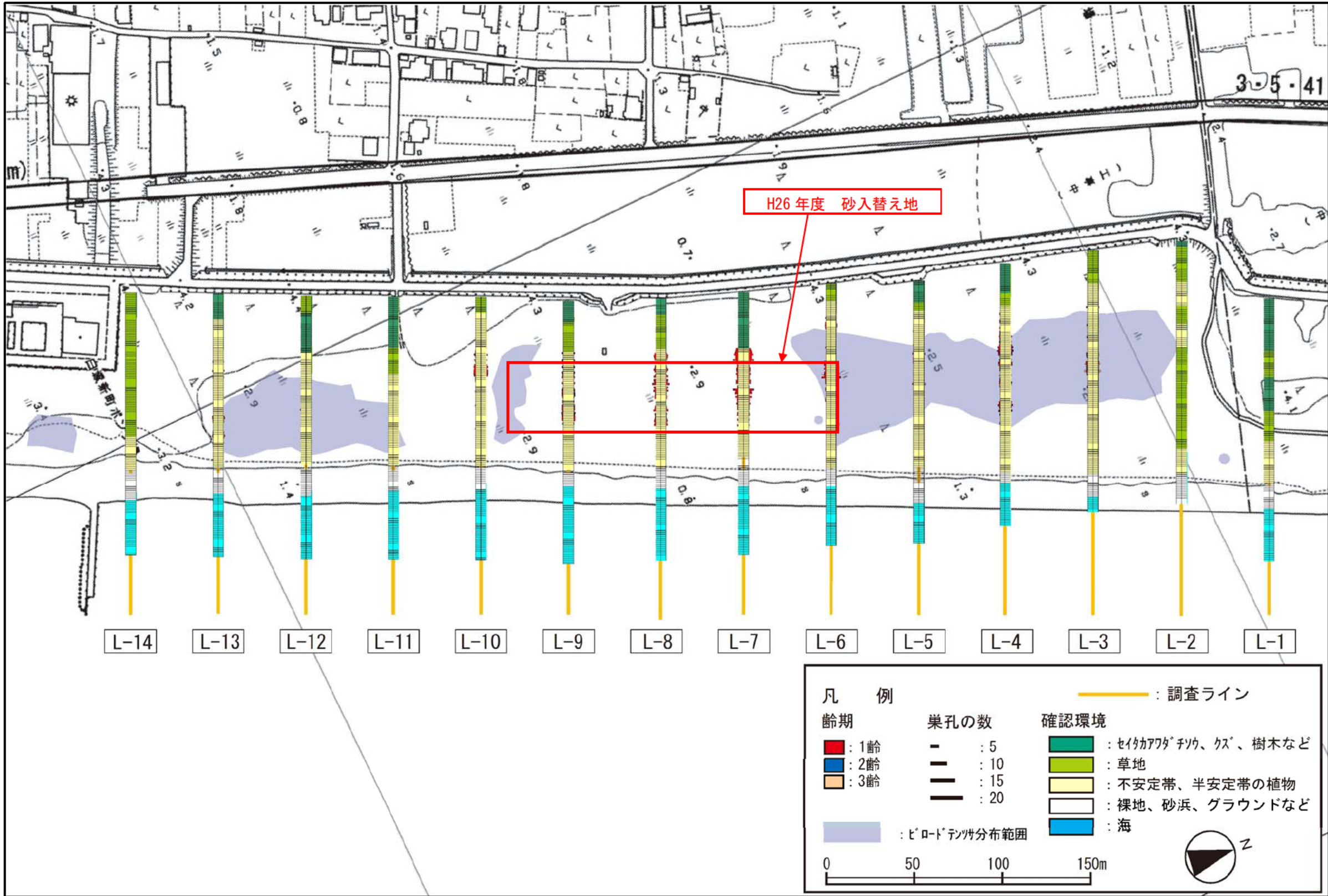


図 3.2-27(12) カワラハンミョウ(幼虫)調査結果(平成26年度調査)

### 3) エサキアメンボ



エサキアメンボの生態情報等を表 3.2-38 に、確認位置を図 3.2-28 に示す。

調査の結果、計画地南側に設けられているヨシ仮保全地（J地区）内で12個体確認された。平成22年度～平成25年度においても、本地点においてエサキアメンボが確認されていた。

エサキアメンボは、下記文献により「水面上の抽水植物群落の植被率が80%以上、群落面積が3m×2m以上である」ことが生息地の環境条件とされている。ヨシ仮保全地区（J地区）は、昨年度と同様に抽水植物であるヨシが約20m×20mの範囲で、ほぼ100%の植被率で生育しており、また、地下水位が高く湛水していることから、本種の生息環境として機能していると考えられる。

なお、平成25年2月にヨシを移植した地点の小規模な池状の水域での生息が期待されるが、限度点では抽水植物（ヨシ・ガマ）の生育密度が低い生息適地とはなっていない。今後、生育に適した密度になった時点で、ヨシ仮保全地（J地区）からの、飛来・生育が期待できる。

表 3.2-38 特筆すべき種の生態及び確認状況（エサキアメンボ）

エサキアメンボ アメンボ科		種の 保存法	-	環境省 RL	NT	三重県 RL	VU
生態	体長8～11mmほどの小型のアメンボ。背面は褐色で側面には銀白色の毛がある。触角は第4節が最長で黒色を呈する。本種は近年減少しつつある水生植物が豊富に生育する止水域を指標する種の一つとなることが示唆される。						
確認 状況	計画地南のヨシの仮保全地で12個体を確認した。ヨシなどの抽水植物が生育し、浸出した水が湛水する場所に生息していた。						
							
エサキアメンボ成虫		エサキアメンボの生息環境					
平成26年8月19日撮影							

（生息地の環境条件）

- ・生息地に共通する環境条件は、水面上の抽水植物群落の植被率が80%以上、群落面積が3m×2m程度以上であると推定できた。

（飛翔距離）

- ・エサキアメンボの飛翔距離は一般に400m～500m程度と推定される。

（水面上活動期）

- ・本州及び九州における水面上活動期は3月から11月である。

「中尾史郎・江種伸之(2007) 紀ノ川流域におけるエサキアメンボ *Limnoporus esakii* のメタ個体群構造. 環境情報科学論文集, 21: 99-104」より